



しあわせ信州



長野県(教育委員会) プレスリリース 令和元年(2019年)5月17日

旧開智学校校舎(松本市)が国宝に指定されます

本日、令和元年5月17日(金)に開催された文化審議会文化財分科会の審議・議決を経て、下記建造物の国宝指定について、文化審議会から文部科学大臣への答申が行われました。今後、官報告示を経て、国宝に指定されます。

1 文化財の概要 詳細は別添資料参照



擬洋風の意匠をまとう
先駆的な近代学校建築

きゅうかいちがっこうこうしゃ
旧開智学校校舎

1棟

松本市

明治9(1876)年建築

昭和39(1964)年移築

つげたり

附 建築関係資料

(文書56点、図面7枚)

本件が指定されますと、長野県内の国宝の件数は10件(建造物6件、美術工芸品4件)になります。長野県内の国宝指定は平成26年8月(土偶=茅野市)以来、建造物の国宝指定は昭和28年3月(善光寺本堂=長野市、仁科神明宮本殿及び中門(前殿)=大町市、大法寺三重塔=青木村)以来となります。

2 旧開智学校校舎に関する問い合わせ先

松本市教育委員会 文化財課

電話 0263-34-3292

松本市立博物館分館 旧開智学校校舎

電話 0263-32-5725



— 確かな暮らしが営まれる美しい信州 —
学びと自治の力で拓く新時代

しあわせ信州創造プラン2.0(長野県総合5か年計画)推進中

学び応援キャラクター「信州なび助」
©長野県教育委員会信州なび助

長野県教育委員会事務局 文化財・生涯学習課文化財係
(課長)小林 司 (担当)市川 厚

電話 026-235-7441(直通)

026-232-0111(代表) 内線 4430

FAX 026-235-7493

E-mail bunsho@pref.nagano.lg.jp

擬洋風の意匠をまとう先駆的な近代学校建築

〔文化財種別〕建造物

きゅうかいちがっこうこうしゃ

〔名称〕旧開智学校校舎

〔員数〕1棟

〔構造及び形式〕木造2階建、寄棟造、棧瓦葺

建築面積 513.58 m²

附 建築関係資料

(文書 56 点、図面 7 枚)

〔建築年代〕明治9(1876)年

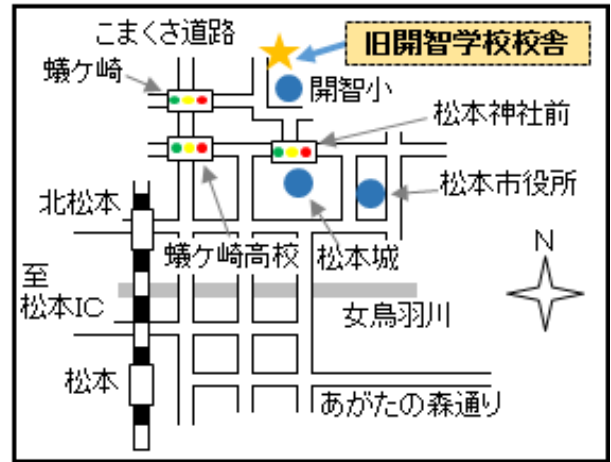
〔所有者〕松本市

〔所在地〕松本市開智2丁目4番12号

〔指定理由〕国宝指定基準

「重要文化財のうち極めて優秀で、かつ、文化史的意義の特に深いもの」による。

〔概要・特徴等〕



国宝松本城のすぐ北に所在する、明治初期に建てられた学校建築です。

地元大工の立石清重が、唐破風や龍彫刻など伝統的な和風建築の要素と、石造風の外壁や棟上の塔屋、色ガラスなど当時最新の洋風建築の要素を巧みに融合し、独創性豊かで極めて優れた意匠の校舎としています。

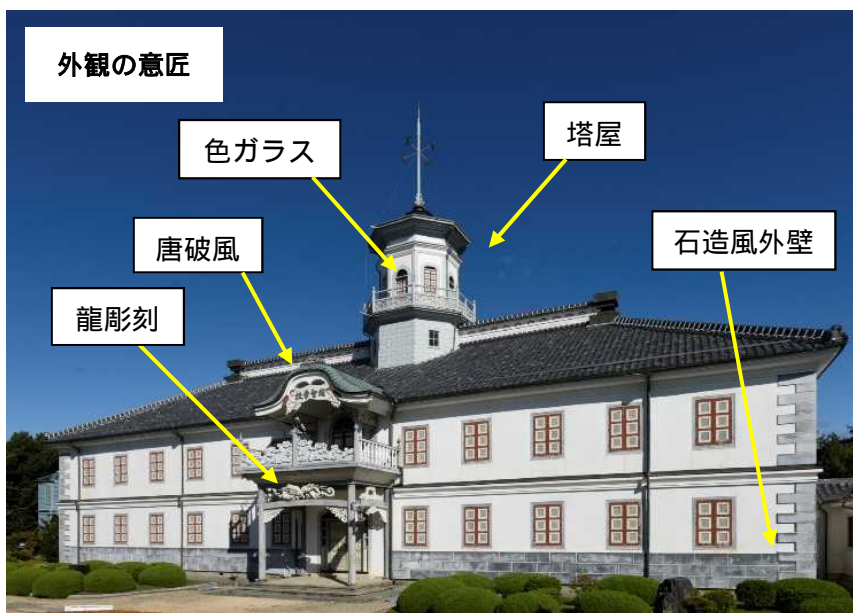
級別授業に対応した教場配置、十分な天井高の設定などが図られており、全国で流行した擬洋風校舎の中でも特に高い完成度と計画の先駆性を有しています。

近代教育の黎明を象徴する擬洋風学校建築の最初期の遺構として、深い文化史的意義を有しています。

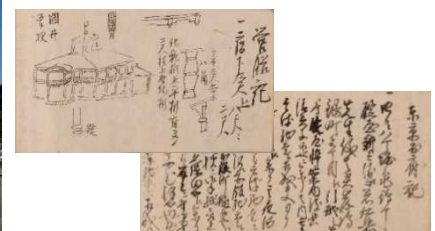
近代の学校建築として、全国初めてとなる国宝指定です。

図面や見積書など豊富な資料により、設計や学校建築としての成立過程などがわかります。

(今回、建物の指定にあわせて文書及び図面も附指定されます。)



内観(1階特別展示室)



附指定の建築関係資料